

平成 30 年度 食育推進に係る実践報告書

学校名	広島県立庄原特別支援学校
-----	--------------

1 学校における食育の現状（昨年度からの課題等）

- (1) 「早寝・早起き・朝ごはん」の調査から、小学部・中学部のほとんどの児童生徒は、朝ごはんを毎日食べており、主食主菜がそろった朝ごはんを食べている割合は約 70%である。高等部の生徒は、朝ごはんを食べないで登校する割合が高く、主食主菜がそろった朝ごはんを食べている割合は約 65%である。朝ごはんを食べないで登校する生徒は固定化しつつあり、朝ごはんを食べない背景には、「早く寝ない⇒早く起きられない」等生活習慣が深く関わっている。
- (2) 口腔機能に合った食事をする事で口腔機能が向上した児童生徒もいるが、保護者との連携不足等で改善の見られていない児童生徒もいる。

2 学校の食育に係る目標（成果指標・目標値）

体：健康で安全に生活できる知識・技能と体力を身に付けた子供

「早寝・早起き・朝ごはん」の取組を通して、朝ごはん抜きと主食だけの朝ごはんを食べる生徒の減少に取り組む。

3 食育の目標に対する具体的な取組

【取組 1】（テーマ）「早寝・早起き・朝ごはん」の取組

- (1) 保護者を対象に実施している給食試食会で、朝ごはんの大切さについて説明し、「朝ごはんを食べること、食事内容をバランスの良いものにする事」に協力をお願いした。
- (2) 「早寝・早起き・朝ごはん」を特にがんばる週間として、年 3 回強化週間を設けた。その期間中は、登校時に「早寝・早起き・朝ごはん」の曲を校内放送で流したり、「早寝・早起き・朝ごはん」のチェックシートを作成し、寝た時間・起きた時間・朝ごはんを食べた内容を記入したりして、「今後、生活習慣を見直すところはないか」の振り返りを行った。その度ごとに、短時間に調理できるアイデアレシピ等の資料を作成し配付を行った。
 - (1 回目) 運動会練習があるので、朝ごはんを食べ、規則的な生活をする事により、熱中症予防に役立てるという目的
 - (2 回目) 夏休み明けであり、学校生活のリズムへと移行することに役立てるという目的
 - (3 回目) 冬休み明けであり、学校生活のリズムへと移行することに役立てるという目的
- (3) にこにこ祭で、クイズ形式のスタンプラリーや掲示を行い、啓発活動に努めた。



【取組 2】（テーマ）教科等における食に関する指導の充実に向けた取組

- (1) 生活単元学習（小学部） のびのび探検隊～学校のひみつ 給食室
 - ア 「たべものパワー」という内容で食べ物の 3 つの働きや栄養バランスについて学習を行った。3 つの働きの食品が、給食には毎日使われていることに気付くように食品の色分けを行った。
 - イ 給食で使う調理器具を実際に見たり触れたりして、大きさや重さ、道具の名称等の確認を行った。
 - ウ 給食で使用する野菜を洗って皮むきを行い、その野菜が入った給食を試食した。
 - エ 調理員さんが野菜を切られている様子や、調理場内の調理器具を見学した。



- (2) 生活単元学習（中学部）作物の収穫
学校で栽培収穫した夏野菜を使用して、調理実習を行った。新鮮な野菜に、触れたり匂いを嗅いだりしながら簡単な調理を行った。
- (3) 生活単元学習（高等部）
和食の素晴らしさやだしについて学習し、実際に和食メニューの調理実習を行い、だしのとり方や飲み比べを行った。塩分チェッカーを使用して、実際に汁の塩分を計測し、だしを効かすと減塩ができるという指導を行った。
- (4) 総合的な学習の時間（高等部）自然体験活動
収穫した作物を使って、生徒が班ごとに1食分の献立を考え調理するという内容の指導を行った。班ごとに自分たちでインターネット等を活用して献立を考えた。その献立について、栄養バランスが良いか、主食・主菜・副菜がそろっているか、時間内に調理ができるかなど栄養教諭が指導やアドバイスをを行い、バランスの良い献立を考え、調理実習を行った。
- (5) 日常生活の指導（全学部）
朝の会、給食の時間、帰りの会において、担任・養護教諭・栄養教諭が連携して指導を行った。
ア 教科などで学習したことを、学校給食を通して確認をした。
イ 献立を通して、食品の産地や栄養についての指導を行った。
ウ 3色食品群を基に考えた、見た目も名前もわかりやすい特別支援学校統一食育キャラクターを活用し、いろいろな場面で指導を行った。
エ 全国郷土料理の日（月に1回）、ひろしま給食の日、リクエスト給食、リザーブ給食、投票メニュー、食育の日、行事食等を実施し、地域の食文化や伝統に対する理解、食への関心を高めた。
オ 給食の配膳から片付けまでの一連の指導を行った。
（配膳指導、下膳指導、食器の並べ方、はしの使い方、食事マナー、正しい手洗い等）

【取組3】（テーマ）一人一人の発達段階に応じた食形態等の個別指導の充実

言語聴覚士の指導助言に基づき、児童生徒の口腔機能に合った食事になるよう食事形態の変更を行った。実践を交えた咀嚼・嚥下についての研修会を行い、口腔機能に合った食事の重要性を再認識した。

4 「ひろしま給食100万食プロジェクト」の取組について

- (1) 5月の保護者対象給食試食会でひろしま給食100万食プロジェクトの趣旨やこれまでの取組を説明し協力をお願いした。また、レシピ及びキャッチコピーの募集についても説明を行った。
- (2) 家庭で楽しく作って食べた食数等を、報告していただくようお願いした。
- (3) 食育ウィーク中に「ひろしま給食」統一メニュー「ひろしまオールスター★担々丼」に合わせて、特別支援学校統一メニュー「トクトクおこめんスープ」を提供した。12月6日に保護者試食会を実施した。
- (4) 児童生徒が、食べたり作ったりした食数をシールで貼って掲示した。
- (5) けんこう通信等を通じて、食べた食数や取組等を保護者に報告した。
- (6) 調理実習で「ひろしまオールスター★担々丼」「タコポテサラダじゃこ〜!!!」を作って食べることで、地場産物を知らせ、食に関する知識や理解を深めさせた。



5 取組に対する成果と課題

【成果】

- (1) 「早寝・早起き・朝ごはん」の調査結果から、朝ごはんを食べないで登校する生徒の割合は改善していない。しかし、児童生徒同士の中でも認識度が上がり、日々の生活の中で意識されていることが伺える。
- (2) 食塊形成が自分では困難で、丸飲み込み中心で早食いのパターンの食事をしてきた児童の食形態を言語聴覚士の指導助言に基づき変更した結果、児童が口唇閉鎖を少し意識するようになり、変化が少しずつ表れている。口腔機能が向上している児童生徒が増え、指導者の意識も向上し、日々の摂食指導において、児童生徒の実態や変化に気付くことができるようになった。

【課題】

- (1) 朝ごはん摂取は、早寝・早起きとの関連や、家庭環境が大きいので保護者の協力が必要である。朝ごはんの大切さはわかっているが行動に結びついていない。
- (2) 口腔機能に合った食形態の対応については、個別性が高く、食べられているのに「今さら」なぜする必要があるのか等理解が得られないケースがある。調理においては、個別対応が多様になり、二次調理に時間がかかり希望どおりに実施できないケースがある。

6 今後の取組に向けた改善方策について

- (1) 朝ごはん摂取は、早寝・早起きとの関連が大きく、そこに課題がある生徒もいる。帰宅後の過ごし方、早く寝るためにはどうしたら良いか等の指導も含めて行う。
- (2) 教科等における食に関する指導は、栄養教諭の専門性を生かした指導ができるように全体計画や年間指導計画の見直しを行い、関係職員と連携し、計画的、継続的、効果的な指導の充実を図る。
- (3) 児童生徒の口腔機能に合った安全安心な給食の提供ができるように、調理の工夫や知識の向上を図り、保護者との連携を図り理解を得られるように取り組む。